

■下村宏(海南) ラジオ放送が戦争世論形成に威力発揮したことを逆手に玉音放送で敗戦時の混乱回避。“簡易保険の父”。

しもむらひろし

初の民間工場1875＝ 和歌山市駕町で、下村房次郎の長男に生まれる。生みと育ての二人の母という家庭。旧藩士の養子で伊達千広に師事、社会に尽すことを志すようになった父は、この年に「修身階梯」を刊行、

三つの反乱・1876＝ 1歳：この年、父が和歌山県準判任御用掛となる。

西南戦争・・・1877＝ 2歳：この年、父が「教育新論」を刊行、

・・・1880＝ 5歳：この年、父が県会議員に選ばれる。

明治14年政変1881＝ 6歳： 生来病弱ながら、和歌山師範付属小では“臆面無しの声自慢”で通し、

秩父事件・・・1884＝ 9歳： 内閣発足・・・1885＝10歳： トラブルに巻き込まれた父が家族残して上京、一家はさらに貧窮するが、日本経済会の懸賞論文に当選した父が賞金全額を寄付して認められ、創設された通信省に入ることになり、

帝国大学始・・・1886＝11歳： 母らとともに東京へ転居。進学準備のため、成立学舎に通い、

帝国憲法発布1889＝14歳： 帝国議会始・・・1890＝15歳： 第一高等中学校に入学、父が私財投じて雑誌「交通」を創刊、その配布を一家総出で手伝ううち、

足尾鉾毒始・・・1891＝16歳： 鉄道国有化にも熱心だった父が世論喚起のため「鉄道論」「日本鉄道策」を刊行した年には、_{交通}に、ペンネーム使って執筆するようになり、小説を書いたり、編集にも携わるようになる。

郡司千島探検1893＝18歳： 父が退官。

日清戦争始・・・1894＝19歳： 同郷の先輩杉村楚人冠に替わり「和歌山学生会雑誌」編集掛となる。

日清戦争終・・・1895＝20歳： 東京帝国大学政治科に入学、すっかり蛮カラになり、外人教師授業への反抗騒動首謀になったりするが、以後も、郵便啓発と日本海航路開拓に生涯捧げる父からの影響を強く受け、

子規句歌革新1898＝23歳： 生母・祖母が死去。卒業。台湾旅行。大蔵省からの誘い断り通信省に入る。文官高等試験合格。

ヒアノ国産化・・・1900＝25歳： 佐々木慎思郎の娘文と結婚。

田中正造直訴1901＝26歳： 父が同志とロシア度々訪問する間、_初代北京郵便局長として清に渡り、義和団の乱後の荒廃に強い衝撃を受ける一方、李鴻章に単独会見申し込み実現も、小村寿太郎公使から叱責され、腸チフスで九死に一生。

教科書疑獄・・・1902＝27歳： 帰国するとぐ、父と一緒にシベリア鉄道に乗り込み、_為替貯金制度を学ぶべく単身ベルギーへ留学、

日比谷公園・・・1903＝28歳： アメリカを経由して_帰国、ようやく父から独立した人物として認められるようになる。

日露戦争始・・・1904＝29歳： この年、日露航路開拓の功績を認められた父がロシア皇帝から勲章を授与される。

日露戦争終・・・1905＝30歳： *東京帝国大学でベルギーの保険制度などについて講演、{国家学会雑誌}に掲載されて注目され、

満鉄発足・・・1906＝31歳： 保険事業に多大の関心有する平田東助に招かれて初面会、簡易保険と年金制度創設を焚きつけられる。

アヲヲ創刊・・・1908＝33歳： この年、父が、後藤新平総裁とする通信協会の設立を機に、_一家の負担となっていた「交通」を廃刊。

伊藤博文暗殺1909＝34歳： _郵便貯金局長。この間、ベルギーで知ったカード式原簿の日本への導入にも尽力、

大逆事件判決1911＝36歳： 妻の歌の師佐佐木信綱に弟子入り、歌人にもなっていく。_台湾総督府民政長官に抜擢、

明治天皇没・・・1912＝37歳： _為替貯金局長。

大正政変・・・1913＝38歳： 父が死去、妻に子ができなかったため、妾に長男正夫が誕生。_民間保険会社の雄矢野恒太との激しく真剣な論争も乗り越え、過労で倒れ入院中、

21ヶ条要求・・・1915＝40歳： 妻の歌の師佐佐木信綱に弟子入り、歌人にもなっていく。_台湾総督府民政長官に抜擢。

民本主義・・・1916＝41歳： _簡易生命保険法が実現し、のち“簡易保険の父”と呼ばれる。

本格政党内閣1918＝43歳： 安東総督が勇退し、かねて尊敬していた明石元二郎に替わる。_高砂族の帰順などに大きく貢献し、

べル仁条約・・・1919＝44歳： 法学博士、総督明石が死去し、新総督田健治郎のもと、台湾総督府総務長官。

大暴落・・・1920＝45歳： 福井県敦賀に下村房次郎の銅像が建立される。台湾体育協会を設立して初代会長。この年の台湾での4時間

原敬首相暗殺1921＝46歳： 杉村楚人冠の誘いか、申し出て、*退官。朝日新聞社に迎えられ、欧米視察の旅へ、

水平社結成・・・1922＝47歳： ベルギー国王の特別拝謁も許可されて_帰国し、朝日新聞専務。日本初の記事審査部設置。

関東大震災・・・1923＝48歳： 岳父佐々木慎思郎も横死した_関東大震災に遭遇、社屋も焼失、金策に奔走、手書きの号外を出す一方、朝鮮人暴動のデマなどの抑止に奔走、

治安維持法・・・1925＝50歳： _東京放送局のラジオ仮放送で演説「新聞の弁」で初出演、声が高く明確でラジオ講演の名手となって行き、

円本時代始・・・1926＝51歳： 大阪・名古屋放送局も統合し日本放送協会となると、_講演依頼が舞込み、全国行脚して行くようになる。

金融恐慌・・・1927＝52歳： 数寄屋橋に、カードシステムを導入した東京朝日新聞新社屋が完成。

共産党事件・・・1928＝53歳： 朝鮮、満州、中華民国視察。

世界恐慌・・・1929＝54歳： 第二歌集「歌集天地」刊行。

海軍軍縮条約1930＝55歳： 朝日新聞副社長になるや、大人事異動を実施し、社内の活性化を図る。

満州事変・・・1931＝56歳： 私人として、台湾再訪。民間人としては異例の歓迎を受ける。

五一五事件・・・1932＝57歳： 「日本民族の将来」出版。佐佐木信綱の還暦祝賀会発起人総代。

国際連盟脱退1933＝58歳： 村山龍平社長が死去、朝日での存在理由が薄くなって行く。

帝人疑獄事件1934＝59歳： 東京朝日新聞東亜問題調査会を発足させ会長、和歌山県人会で松下幸之助を発掘、皇族や著名人の松下電器訪問に尽力し、その発展を支えて行く。

芥川直木賞始1935＝60歳： この年、ラジオ聴取者数が朝日購読者数を上回って、_ラジオが最強のメディアとなる。

二二六事件・・・1936＝61歳： 自ら提唱した定年退職の模範示そうとして慰留されるも、二・二六事件の襲撃に遭遇し、朝日新聞退社。

日中戦争始・・・1937＝62歳： 六甲の家を手放し田園調布へ転居、*大日本体育協会会長。貴族院議員となり、政治家として活躍始める。

健保+総動員1938＝63歳： 満州移民協合理事として37年ぶりに訪中。_体協の財務を一気に改善するも、東京オリンピック返上決定。

第二次大戦始1939＝64歳： 対馬と杵岐を訪問して全国踏破達成、海南島訪問で、台湾にも立ち寄るが、今度は歓迎されず。

大政翼賛会・・・1940＝65歳： 賞勲局より皇紀二千六百年祝典記念章。

日米開戦・・・1941＝66歳： 簡易保険成立二十五周年で厚生・通信大臣より感謝状。_提唱してきた運動会がブームとなるが、樺太を訪れた際、狭心症で倒れ、以後、療養生活となるなか、

・・・1942＝67歳： 大日本体育会名誉副会長、カナモジ会会長。_翼賛選挙でのラジオ放送も好評で、

創価学会検挙1943＝68歳： _日本放送協会会長となると、人事異動の大改革の一方、天皇のラジオ出演を画策し始め、

敗戦・・・1945＝70歳： *長く侍従長を務めた鈴木貫太郎を訪ねて、高い評価を、鈴木内閣実現とともに国務大臣兼情報局総裁となり、極秘裏に根回し進め、鈴木が決意を促し、宮中の妨害乗り越え昭和天皇に異例の拝謁、ついに天皇がマイクの前に立ち、録音レコードを若手将校らのクーデタから守って、玉音放送を実現、敗戦の衝撃救う。

新憲法公布・・・1946＝71歳： _A級戦犯容疑で自宅軟禁、不起訴となるも公職追放。以後も秘密裏に鈴木内閣メンバーと交流、敗戦に至る内幕を整理し始め、松下幸之助が始めたPHP運動にも参加、

新憲法施行・・・1947＝72歳： 極東裁判決・・・1948＝73歳： 「終戦記」刊行。

朝鮮戦争始・・・1950＝75歳： 「終戦秘史」刊行。

独立回復・・・1951＝76歳： 公職追放解除。貞明皇太后死去で服喪中の昭和天皇から牧野伸顕とともに葉山御用邸に召され、

メデー事件・・・1952＝77歳： 松下幸之助による新政治経済運動開始。自宅がおそらく嫌がらせ放火で全焼。「日本はどうなる」の題目で、_ラジオ出演を再開する一方、公明選挙連盟の常任理事となつて総選挙の応援演説、

TV放送始・・・1953＝78歳： _公明選挙をテストしようと、自らも参議院選挙に立候補したが落選し、

55年体制始・・・1955＝80歳： 育ての母政枝が死去。松下幸之助開催の「音無会」に別格の賓客として招かれる。

国連加盟・・・1956＝81歳： なべ底不況・・・1957＝82歳： 国立公園審議会会長を務めるうち、_没した。勲一等旭日大綬章追贈。

坂本慎一「玉音放送をプロデュースした男」、